

第5回まちづくり市民会議の結果概要

1 日時

平成19年6月20日(水) 19:10~20:30

2 会場

市役所7階大会議室

3 参加者

- ・委員23人(欠席16人)
- ・事務局(企画調整課長、外5名)
- ・コンサルタント

4 会議概要

(1) 本日の進め方について(案)

事務局から本日の会議の進め方について提案、全会一致で了承

- ・「鹿屋市各地域での取り組み」について3グループの編成とすること。
- ・「これまでの会議の意見集約」について全体で行うこと。

(2) 第4回会議のまとめ

第4回会議の結果概要について報告、全会一致で了承

(3) グループ協議 鹿屋市各地域での取り組みについて

グループ別協議結果(各9ページ以降)

- ・A(輝北、鹿屋地域)グループ 4ページ
- ・B(串良、鹿屋地域)グループ 6ページ
- ・C(吾平、鹿屋地域)グループ 7ページ

(4) グループ毎の結果報告(鹿屋市各地域での取り組みについて)

A(輝北、鹿屋地域)グループ 発表者 永友 委員

輝北地域

環境を基本とした施策の展開(モデルづくり)

- ・輝北のイメージは星空
- ・環境がキーワード

鹿屋地域

観光(ばら園を核)をベースとした地域振興、基盤整備

- ・農業生産の質の向上、付加価値を高める。
- ・ばら園と地域産業の連携、拠点間のネットワーク化

B (串良、鹿屋地域)グループ 発表者 河原 委員

串良地域

安全・安心を売りにしたブランド化、PR

- ・畜産やウナギなど、海外に目を向けた国際競争力を高める。
- ・笠野原台地を農業の拠点に

鹿屋地域

ばら園を核に回遊性、通年性、楽しめる工夫を

C (吾平、鹿屋地域)グループ 発表者 繁昌 委員

吾平地域

市街地のベッドタウンとしての役割

吾平山上稜、観光農園を生かした鹿屋地域との連携(主に観光)

鹿屋地域

ばら園を核として市内各地の観光資源を結び循環する観光ルートづくり
スポーツ振興によるまちづくり(スポーツ施設、宿泊施設の充実)

(5) 第1回～第5回会議のまとめ

第5回会議の協議を踏まえた意見交換集約案を送付し、第6回会議で取りまとめることとした。

キーワードについて

- ・「環境保全」は、地球温暖化抑制の観点からキーワードとして重要である。
- ・行政と市民の一体となったまちづくりの推進が望まれることから、「共生」の概念を明確にすべきである。

まちづくりの方向性について

- ・現在の産業振興などの取り組みは、行き着くところまできている。別の角度からみた施策の展開・考え方が必要である。「一皮剥こう」という考え。質と内容の向上が主題
- ・「まちづくりグループの育成」とあるが、行政側の主導ではなく、住民主体の活動を「見守る」観点としてほしい。
- ・もう少し具体性をもたせてはどうか。
- ・地域を愛する心の醸成の取り組みも盛り込むべきではないか。
- ・「産・官・学」が一体となった取り組みを盛り込むべきではないか。
- ・従来のやり方のみではいけない。従来型でよいもの、従来とは異なった取り組みを明確に示すべきである。

(6) 次回まちづくり市民会議の日程調整

事務局から7月18日(水)を提案、全会一致で了承

5 グループ別協議結果

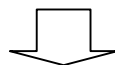
(1) 鹿屋市各地域での取り組みについて

Aグループ：輝北・鹿屋地域

鹿屋地域

鹿屋地域での現状・課題

- ・ 財源が厳しい中、住民からの税収の減少していく状況において、数年後には「夕張市」と同じ状況になりかねない。行政も市民も危機感を感じているか？
(市) 歳出の削減が重要であり、現在その取り組みを進めつつある。
このような中で鹿屋市のまちづくりの方向として以下が想定される。
 - ・ 環境保全型農業の推進、生產品のブランド化
 - ・ 内発型産業へのシフト、流通への発展といった産業構造の転換
 - ・ 第一次産業を核とした加工産業の誘致
- ・ 農業生産の付加価値が低い。農業が利益をあげていない。質が低い。付加価値が域外で図られている。
質を上げる必要がある。(農業だけの問題ではない)
量より質を求める姿勢。行政、住民が一体となってやらねばならない。
- ・ 子どもたちの健全育成を目的とした子どもたちとの勉強会、オリオンビールや射撃場の誘致への取り組み等、住民自らの手で地域づくり行っている。(大始良地区)
- ・ 観光客の動向は？ かのやばら園開園で伸びている。(市)
- ・ かのやばら園と他の観光拠点等とのネットワークが不備。付加価値が少なく、リピーター確保が難しい。
単一施設でははく、複合化が必要(買い物、フィットネス、食)
まち全体をかのやばら園とすることにより産業振興に繋がる(商店街、農産物・・・)
まち全体のかのやばら園化(主要道路の植栽)
かのやばら園と地域産業との連携
- ・ 毎年県レベルでの野球大会を実施しており、本年は鹿屋で8月に行う予定であるが、24チームで計画している。(過去最大は、指宿で68チーム)
球場があれば域外から誘客できるし、観光産業の発展にも寄与できる。
スポーツ都市として、野球場も含めた総合運動公園の整備が望まれる。
スポーツ施設等による交流促進
- ・ 鹿屋の方向性が見えてこないことが課題
- ・ 拠点間のネットワーク化
- ・ お金が落ちる方法を考える。まちが活気づく方法を考える。



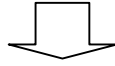
鹿屋地域の役割、取り組み

『観光(かのやばら園を核)をベースとした地域振興、基盤整備』

輝北地域

輝北地域の現状・課題

- ・輝北のイメージは「星空」
- ・「環境」がキーワードとなる。
- ・環境保全、環境啓発のモデルとなるような地区である。



輝北地域の役割、取り組み

『環境を基本とした施策の展開（モデルづくり）』

<役割 / 将来のイメージ>

串良地域

- ・ 串良といえば
 - 畜産が盛んな地域（牛・豚など）
 - ウナギの養殖も有名
 - 笠野原台地（高いポテンシャル）
- 海外に目を向け
国際競争力を高めていくことが必要
- 生き抜いていくために
ハード面&ソフトの両方に取り組む
安心・安全を売りとしたブランド化、PR
行政と市民が協力し研究していく

霧島が丘公園、かのやばら園周辺

- ・ ばら園のリピーターを増やすためには、
 - 周辺にも人を呼べるような形（回遊性の確保）
 - 年間を通じて楽しめる工夫（通年性の確保）
 - 見るだけでなく体験できる場（農園など）をばら園の周辺に
- ・ ばら園が改修されNPOとして管理に携わるようになってからまだ2年目である。今後、色々な人の意見等を踏まえながらどのようにしていくべきかを検討し、ばら園の魅力を高めていきたい。
- ・ 一般的に、美味しいもの（ホンモノ）を食べたことがない人が多い（味を知らない）
- ・ 健康への関心は高い。
- ・ 楽しめる工夫：「見る」+「ホンモノの良さ」+「体験型」 など

本来の味を提供する。この地域ならではのホンモノをアピール
安心・安全で健康にも良いもの

鹿屋市のまちづくり、地域産業のあり方

- ・ 鹿屋市には「集中型」でなく「分散型」が合っている（田舎は分散型が良い）
 - よくない例：下水道、養豚など
 - よい例：畜産で言えばヨーロッパ型の畜産を

行政の対応について

- ・ 行政は、単に「行政で出来る」「出来ない」という視点で区分し対応すべきではない。まずは「市民の声に耳を傾け乗ってみること」が必要である。

行政の対応：市民の声を聞く 組み合わせを考える 民と協力

吾平地域

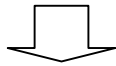
まちの方向性

- ・ 市街地のベッドタウンとしての役割
- ・ 地域の特徴を生かす（観光農園など）

鹿屋地域

まちの方向性

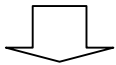
- ・ 大始良地区 阿蘇ファームランドのような施設はどうか。



吾平と鹿屋地域

まちの方向性

- ・ 吾平と鹿屋にはそれぞれの良さを生かした役割分担が必要
例)吾平地域...吾平山陵+縁結び...団塊世代をターゲットにもう一度縁を結び直す
鹿屋地域...かのやばら園・リナシティでお披露目やパーティを開催
...宿泊施設
市内をレンタカーで廻る



鹿屋市全体（地域の良さを生かし・連携することが重要）

- ・ 観光資源を結び循環する観光ルートづくり
- ・ 旧1市3町の一体感の醸成

例)霧島ヶ丘公園イベント最終日に花火大会を開催する
花火をフェリーからも楽しめるようにする

- ・ 身近な資源の再発見・再確認が必要
- ・ スポーツ施設の充実（宿泊所含む） スポーツ振興によるまちづくり
例)宮崎市の例：春のキャンプなど 経済効果・交流促進
- ・ 指定管理者との協働による取り組みの推進
（施設毎でばらばらに活動するより、一緒に企画し情報発信する方がよい）
例)個々の施設を結びつけられる「協議会」を設立
- ・ 官民一体となった取り組みが大事
- ・ 遊休地（営林署跡地）の活用+体育大との連携
- ・ 鹿屋市の見かたは、大隅半島、鹿児島県、九州、全国といった視点で変わってくる。
- ・ 域外からの来訪者に対して迎え入れる気持ち（体制）が大事
- ・ 既存施設の有効活用

例)大始良出張所...市民の活動拠点にし、地域のことを考えていく場所にする
ことができる

- ・ 地域間交流を盛んにすることが大事
- ・ 催しもののPR方法を工夫

例)催しもの...広報で目立つように枠でくくる

(その他)

- ・ 元からある鹿屋の自然を大切にすることが大事
(リナシティなど施設整備はリスクを伴う)
- ・ 身近な自然である里山づくりが大事
- ・ 豊かな自然(海・山・川)を大事にしながら教育に生かすことは人材育成につながる